

シリーズ エコキャンパス行動宣言 (その1)

美しいキャンパス景観の創造

「私たちは、キャンパス内での諸活動を通して美しいキャンパス景観を創造します」

エコロジカルキャンパス推進委員会
伊波美智子 (法文学部)

初夏を迎えた琉大キャンパスは文字通り滴るような緑が目と心を和ませてくれる。緑に加えてイジユの花、白百合や月桃、その他大小さまざまな花が咲き競っている。花も島育ちは目立ちたがらない・・・そんなこと等を勝手に考えながら鳥の囀りや虫の声に耳を傾けキャンパスを散策すると豊かな気分になる。ドイツの大学都市ハイデルベルグにある「哲学者の道」にまさるとも劣らない。キャンパスの豊かな自然は、縁あって琉大で緑を食む者にとって何物にも代え難い報酬である。

北口で

最近、事務局本館や北口、西原口等に色鮮やかな花が植栽され、訪れる人々に好評である。以前から、工学部や農学部、教育学部、理学部、法文学部、医学部、共通教育棟周辺では教職員がボランティアで植栽や水遣りをしてきたが、少しずつその輪が広がり定着しつつあるように見える。自らの職場を気持ちよくすることを喜びとする方々が増えるのはエコキャンパスプロジェクトの大きな目標でもある。

野生の花と違い、艶やかな鑑賞用の花は手入れが欠かせない。「どなたがやっているのですか？」と北口の警備員さんにきいてみた。「私がボランティアでやっています。」日焼けした人の好い笑顔で仲間寛武さんが答えてくれた。自分の職場を気持ちよくしたいからと、2年ほど前から暇をみては楽しみながらコツコツやっているという。石ころだらけの土を掘り返し、農場から土をもらってきたり、さまざまな形に樹木を剪定したり、切り株や廃材を利用してガーデニングを楽しんでいる。今では教職員や学生をはじめバスの運転手等、いろんな人が声をかけてくれ、花や野菜の種等を届けてくれるのだという。

ごみもなくきれいですね、という「週1、2回学生たちがボランティアでごみ拾いをしてくれますよ」とのこと。エコキャンパス宣言を日常の活動に取り込むにはどうしたらよいか思案していた時だけに思わず声が1オクターブ高くなり、さっそく連絡をとってくださるようお願いした。



北口の守衛室前

フロンティア・スピリット・クラブの学生たち

その週のうちに法文学部3年次の山田尊雄君が研究室に訪ねてきてくれた。この4月から学内清掃・美化の活動を始めたフロンティア・スピリット・クラブの代表を務めている20人ほどのメンバーが、毎週火曜日の朝(8時から8時半まで)、木曜日夕方(6時半から7時頃まで)、そしてお昼休みにもチョチョイと活動しているとの事。来週の火曜日の朝に私も参加するからと伝え、その日を心待ちにした。

5月18日(火)の朝は台風2号の接近で雨が断続的に降っていた。こんな日もやるのだろうかといぶかりながら、ともかく出かけた。北口で仲間さんに声をかけると、「あそこでやってますよ」、と駐車場を指差す。ここでは、オレンジ色のジャンパーを着た女子学生が3人、雨で柔らかくなった駐車場の隅で雑草を抜いていた。夜間主コースの学生もいる。近くに住んでいるから、と屈託がない。なんと月300円ほど出しておみ袋や道具、ジャンパー等を揃えているとのこと。感激しまくる私をみて彼らが感激する始末。駐車場周辺、寮の塀のあたりを花いっぱいにするのが夢だといいながら箒を片手に清掃していた。清々しい笑顔が実に可愛い。東口の駐車場では、男子学生が5人ばかり、これも雑草を引き抜いたり土を掘り返したりしていた。最初は同じ講義をとっている仲間2、3人からスタートして、とくに呼びかけているわけでもないが、今では学部も年次もばらばらな学生が20名ばかり参加しているという。自分たちの大学をもっと良くしていきたいから、ボランティアをしたいから、という笑顔に気負いはなくさわやかである。琉大生も捨てたものではない。そう、「100の愚痴より10の提言、10の提言より1の実行」というではないか。

ありがとう！もう愚痴はいうまい、と彼らの笑顔に励まされた。



エコキャンパス行動宣言

キャンパス内にごみ分別箱が設置されて1年余、ループ道路内のポイ捨てはかなり減った。環境整備員の方々が定期的に芝刈りをし、周辺学部や図書館の協力を得てゴミは定期的に回収されている。ベンチ等も整備されて図書館前の木陰は昼食時間に弁当を広げて談笑する光景が当たり前にみられるようになった。相変わらず目につくのはタバコの吸殻だが、ごみのうちに入らないと思っているのだろう。しかし、タバコのポイ捨ては立派な軽犯罪である。駐車場のごみも多い。東口には明らかに引越しごみとみられるカーペットや家電・台所用品、バイク等が捨てられ放置されている。駐車場にも分別ゴミ箱を設置していく必要があるが、それには定期的に回収を行うことが前提である。定期的に回収する（人目がある）と不法投棄は減る。それにしても、残念ながら捨てる人より捨てる人が多いのが実情である。ごみを捨てない、自らが出すゴミに責任を持つ（ゴミ箱に入れるだけのことだが、大袈裟に言えばこうなる）という当たり前のことから教えていかなければならない。エコキャンパス行動宣言には、啓発という大きな目的がある。大学の構成員一人ひとりの行動の結果としてキャンパスがきれいになる。故ケネディ大統領がアメリカ国民によびかけたように、行動をよびかけていこう。



「大学が何をしてくれるかではなく、大学に何を貢献できるかを考え実践しよう。」

以上、エコキャンパス行動宣言3つのルールの中の第1回は「美しいキャンパス景観の創造」についてのエピソードを報告した。以後、第2回「省エネ・省資源の推進」、第3回「思いやりとコミュニケーション（禁煙等）」について考えていきたい。

(琉球大学のホームページ <http://www.u-ryukyu.ac.jp> にエコキャンパスのサイトもあります。)

[学報トップ](#)